

# 令和5年度 学校評価報告書

目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	★関係者評価	★学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題	
中期 もに、日々の授業の充実を促すこと	言語活動を重視した問題解決的な授業づくりの推進	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の振り返り活動や単元全体を通した展開の工夫に加え、学びを深める等に力点を置いた「たかおか授業モデル」の取り組みを充実することができた。</li> <li>「お話タイム」を毎週木曜日の朝活動に設定し、継続してきたことで、「話し合いが好き」と思える子どもが育ってきている。</li> <li>板書に力を入れ、わかりやすい授業に加え、参加型の授業を基本的なスタイルとして定着させている。</li> <li>高学年の授業で教科担任制を行うことで、より専門的な授業づくりを進めることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちがよい表情で学習に取り組んでいる。子どもたちの話を聴く時の集中力と活動時の意欲とに、めりはりがあってよい。</li> <li>1時間ごとの振り返りを充実させ、継続・積み重ねを大切にしてほしい。</li> <li>「お話タイム」の成果だろうが、友達の前で堂々と意見を述べていたので感心した。「お話タイム」を参観できる機会があればありがたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語活動を重視した授業づくりをさらに推進していくなかで、焦点化を図った取り組みをしていく。</li> <li>★テーマに基づいて自分の意見を語る「お話タイム」の取り組みをより充実させる。</li> <li>★児童が授業の中で輝く姿を引き出せるよう、さらなる授業改善に努める。</li> </ul>	
	わかる授業の工夫と基礎基本の定着	A						<ul style="list-style-type: none"> <li>板書を中心とした日々の授業改善について重点的に取り組む。</li> <li>高学年を中心に教科担任制を取り入れ、教科における資質能力を高める取り組みをより一層充実させる。</li> </ul>
長期 互いを認め合う温かな心の育成	互いを認め合う温かな心の育成	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳や学活の授業だけでなく、朝の会でのミニ道徳等を充実させることができた。</li> <li>hyper-QU、学校生活アンケート、個別面談週間等の取り組みを活用し、子ども支援に生かすことができた。</li> <li>定期的な「子ども支援委員会」だけではなく、臨時の小委員会を随時開催できたが、関係諸機関等との連携をさらに模索していきたい。</li> <li>日々の授業の中で、自己肯定感や充実感を味わえるよう努めてきた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業参観を通じて、学級の良い雰囲気を感じることができた。「生徒指導を機能させた授業づくり」は、今後も大切にしていってほしい。</li> <li>先生方が困り感のある子どもたちによく対応している。主任児童委員との定期的な情報交換ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★困り感のある子への対応をより充実させるため、関係諸機関との連携を深めていく。</li> <li>★自己存在感や自己有用感を味わえるよう、生徒指導を機能させた授業づくりをより推進していく。</li> </ul>	
	いじめや不登校の未然防止	B						<ul style="list-style-type: none"> <li>hyper-QU等を活用した丁寧な見取りと「子ども支援委員会」を核とした組織的な対応をすすめる。</li> <li>生徒指導を機能させた授業づくりを推進する。</li> </ul>
開かれた学校づくりに努める。小中一貫教育をすすめる、家庭及び地域との連携のもと、	家庭や地域と連携した小中一貫教育の推進	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫教育部会を開催し、「9年間の道標」の部会ごとの詳細な取り組みについて検討し、新たな取り組みを充実させることができた。</li> <li>トヨッキースクールをはじめ、地域が率先して取り組みを進めてくれている。今後さらに連携を深めながら進めていきたい。</li> <li>各学年が工夫をして「たかおか学習」を進めることができた。</li> <li>HPを活用して学校の様子を積極的に発信することができた。</li> <li>授業参観やその他の学校行事については、コロナ禍前の参加機会を確保することができた。</li> <li>6月の大雨時の対応をはじめ、家庭や地域からの声は速やかに情報共有を図り、改善につなげてきた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>一小一中のよさを生かした小中一貫教育は今後も継続していきたい。</li> <li>トヨッキースクールの活動が、より充実してきているので、コミュニティスクール導入につなげていきたい。</li> <li>高学年児童を中心に、中学生に交じって地域の清掃活動や地域防災訓練に参加できると、地域・家庭の連携にもつながるのではないか。</li> <li>HPやメールの活用により、情報発信がうまくできていると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★小中一貫教育と関連づけて地域との協働をさらに進めていく。</li> <li>SDGsについては、低学年からの積み重ねが必要であり、今後とも地域の方との交流を図りながら、地域に学ぶ取り組みを継続していく</li> <li>★HPやメールの活用した情報発信に加え、さまざまな機会を通して、保護者や地域との双方向の受信・発信をすすめていく。</li> </ul>	
	校区を愛し、誇りがもてる郷土学習の推進	B						<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科及び総合的な学習の時間を中心に、SDGsを指向した「たかおか学習」を工夫する。</li> </ul>
	積極的かつ迅速・正確な情報の発信と受信	A						<ul style="list-style-type: none"> <li>学校HP等を活用した情報の発信を行うとともに、家庭や地域からの意見を積極的に生かす。</li> </ul>
教師の力量向上を図り、教育公務員としての自覚を高めるよう努める。	教師の授業力向上とOJTの工夫	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究部会を中心に、授業案の検討や取り組みの検討などを行い、OJTの機能を生かすことができた。</li> <li>相互授業参観を通して互いに学び合うことで、授業づくりに生かすことができた。</li> <li>研究部会のもち方を工夫するなど、学校全体で業務改善を図ってきたが、まだ十分ではない。</li> <li>時間と心に余裕をもって取り組み、風通しのよい雰囲気づくりに心がけることで不祥事防止に努めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>力量向上に向けた取り組みや不祥事防止に向けた取り組み等を聞くと、「A」評価でもよいのではないかと。</li> <li>多忙化解消が目的化とならないよう、子どもたちのためにどう生かされているのかを意識してほしい。</li> </ul>		
	多忙化・多忙感解消のための取り組みの充実	B					<ul style="list-style-type: none"> <li>各種行事等のスリム化に組織的に対応するとともに、セルフマネジメント意識のもとに業務改善を図る。</li> <li>不祥事撲滅のための取り組みを一層充実させる。</li> </ul>	

【教職員自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

※関係者評価については、学校評議員の方々からの評価をそのまま掲載してあります。